

平成 22年 5月 10日現在

|           |   |
|-----------|---|
| 研究種目：     | 基盤研究（B）   |
| 研究期間：     | 2007～2010   |
| 課題番号：     | 19320133  |
| 研究課題名（和文） | 都市空間における女性の商品化<br>—米軍基地周辺遊興街の社会・歴史地理—   |
| 研究課題名（英文） | Commercializing Women in Urban Spaces: Socio-historical Geography of Military Base and Neighboring Amusement Area |
| 研究代表者     | 吉田 容子（YOSHIDA YOKO）<br>奈良女子大学・文学部・准教授   |
| 研究者番号：    | 70265198  |

研究代表者の専門分野：都市・社会地理学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：都市空間，米軍基地，遊興学，ジェンダー関係

## 1. 研究計画の概要

都市の特定地区に女性を「商品化」する空間が存在してきたことを問題視し、ジェンダー関係をはじめ、さまざまな権力関係が都市空間においてどのように作用し、それらの諸関係がいかにか都市空間に刻まれ、また、そこに出現するのかを検証することが、本研究全体の具体的な目的である。研究対象には米軍基地周辺の遊興街を選定し、女性が「商品化」される空間がどのように作りだされたのかを、社会・歴史地理的な視点から明らかにしつつ、基地や売春をめぐる住民運動の展開にも注目する。以上の研究目的のもと、各研究分担者の役割・課題は次のようなものである。

- (1)米軍基地周辺遊興街の成立過程にみるジェンダー等の権力関係の解明（吉田）
- (2)軍事基地および軍事演習場をめぐる地域住民の反対運動（中島）
- (3)近世・近代の都市空間における遊廓に起因する赤線地区・青線地区（集团的売春街）成立の歴史地理（加藤）
- (4)米軍基地周辺遊興空間の消費と観光の関係性（神田）
- (5)ジェンダー関係が投影された都市空間の分析（影山）

## 2. 研究の進捗状況

上記各研究分担者の役割・課題についての進捗状況は、以下のとおり（上記番号に対応）。

- (1)終戦直後、連合軍が駐留したり、米軍基地や関連施設が置かれた沖縄県沖縄市、同県金武町、長崎県佐世保市、山口県岩国市、広島

県呉市、神奈川県横須賀市、また、朝鮮戦争時に帰休兵を受け入れた経緯がある奈良市など、いくつかの研究対象地を現地調査し、基地や関連施設の周辺に歓楽街がつけられるに至った社会・政治的背景や、歓楽街形成のプロセス、またそこで自らの性を商品として売らざるをえなかった女性たちと兵士、地域住民、行政などの関係性について、主に当時の地方紙から情報を収集・整理を行った。

(2)沖縄県名護市辺野古の米軍海上基地建設予定地を取り上げ、反対運動の歴史的過程や現状を明らかにするとともに、海上基地建設反対運動について建設予定地周辺の環境保護をめぐる反対運動と地域住民との関係を明らかにした。

(3)近代的な都市空間編成における「遊廓」の位置づけを明確にすることが、戦後への展開も含めて必要となることが明らかとなりつつあるので、近代以降に重点を移して調査・研究を行った。さらに、米軍統治下における沖縄をフィールドに、基地周辺に建設された歓楽街の分析から、軍政府・民政府の施策ないし方針の特徴を明らかにし、本土とは異なる空間の生産過程があることをつきとめるに至った。

(4)ソウル、那覇市、和歌山県白浜町、東京都立川市、横須賀市で現地調査および資料収集を行ない、米軍駐留の前・後の変化に焦点をあて、その状況を整理した。

(5)那覇市と横須賀市を事例に、売春防止法制定前に米軍基地周辺歓楽街において認められた売買春の実態や、それへの住民や行政の対応について、当時の新聞や行政記録から整

理するとともに、売春防止法の施行以降、それまで売春に関わってきた女性の救済および自立支援を図る目的で設置された婦人保護施設について調査を行った。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

その理由は、雑誌論文2件、学会発表9件（うち、国際学会3件）、図書3件（うち、単著1件）と、着実に研究成果をあげ、公表を行ってきたことである。加えて、現時点で雑誌論文に掲載予定のものが数件あるほか、地理学関連学会でも発表予定が数件ある。

### 4. 今後の研究の推進方策

今後の研究において、特に大きな変更点はなく、また、問題点も見当たらない。

最終年度に行うべきことは、各研究分担者がそれぞれの研究対象地において、本研究における役割・課題に沿って追究してきた成果をいかにつなぎ合わせて体系化させ、そこから本研究課題の「都市空間における女性の商品化」について、女性の性を「商品」とみなしてこれを消費する空間が存在してきた理由を暴くことである。そのためには、そうした空間を形成し、かつまた、そこに投影された多様な権力関係の解明に努めていかねばならない。そこまで辿り着くには、最終年度において今まで以上に研究会を行って、研究分担者間で資料や情報を共有し、議論を深めていく必要がある。

### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

①吉田容子, 沖縄の米軍基地周辺歓楽街に関する一考察—沖縄県金武町を事例に—, 奈良女子大学地理学・地域環境学研究報告VII, 2010, 113-129.

②中島弘二, 沖縄における自然保護と基地反対運動の展開—ジュゴン保護運動を事例として—, 金沢大学文学部論集 史学・考古学・地理学篇28号, 2008, 77-94.

〔学会発表〕（計9件）

①中島弘二, 沖縄における自然保護と基地反対運動—ジュゴン保護運動とエコツーリズムをめぐって—, 地理科学学会秋季学術大会シンポジウム, 2009年11月28日, 広島大学.

②中島弘二, 抵抗の場としての自然—名護市辺野古の海上基地建設反対運動をめぐって—, 日本地理学会秋季学術大会, 2009年10月24日, 琉球大学.

③加藤政洋, 戦後那覇の都市計画と「場所の政治」—<辻町>の再興をめぐって—, 日本地理学会秋季学術大会, 2009年10月24日,

琉球大学.

④中島弘二, The contested nature of Hijudai: people's struggles for nature in the Hijudai maneuver field, Japan.,

The 14<sup>th</sup> International Conference of Historical Geographers, 2009年8月24日, Kyoto University, Japan.

⑤吉田容子, Spatial politics about Rest and Recuperation Center for occupation army: a case study of ancient capital Nara, Japan., International Sociological Association Research Committee on Urban and Regional Development, 2008年12月18日, 国際文化会館（東京）.

⑥吉田容子, Control of urban space in the period of reconstruction after the War, The 31st International Geographical Congress, 2008年8月14, チュニス.

⑦影山穂波, 沖縄の地域と女性—売春防止法をめぐる動き—, 経済地理学会 中部支部例会, 2008年4月26日, 愛知大学 車道校舎.

⑧吉田容子, 都市空間にみるジェンダー関係, 立命館地理学会大会, 2007年12月1日, 立命館大学衣笠キャンパス.

⑨吉田容子, 戦後復興期における「特飲街」の形成と都市空間の秩序—沖縄県旧コザ市を事例として—, 人文地理学会 都市圏研究部会 第25回部会, 2007年11月17日, 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス.

〔図書〕（計3件）

①加藤政洋, 光文社新書, 敗戦と赤線—国策売春の時代—, 2009, 244.

②吉田容子, 昭和堂, 敗戦後の奈良（奈良女子大学文学部なら学プロジェクト編『大学的奈良ガイド—こだわりの歩き方』所収）, 2009, 253-267.

③中島弘二, 古今書院, 沖縄における草の根平和運動とエコツーリズムの展開（金沢大学文学部地理学教室編『自然・社会・ひと—地理学を学ぶ—』所収）, 2009, 96-114.

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ

[http://www.nara-wu.ac.jp/bungaku/sge/s/database/yoshida\\_01.html](http://www.nara-wu.ac.jp/bungaku/sge/s/database/yoshida_01.html)